

信州型自然保育（愛称：信州やまほいく）認定制度の概要

県民文化部

（平成 27 年 4 月 1 日施行）

1 制度の概要

豊かな自然環境や多様な地域資源を活用した、屋外を中心とする様々な体験活動を積極的に保育や幼児教育に取り入れる活動を「自然保育」と定義。

自然保育の社会的認知、信頼性、質の向上を担保するため、長野県が独自に 24 項目の基準を定め、自然保育に取り組む団体を認定。認定の種類は特化型（週 15 時間以上の体験活動）と普及型（週 5 時間以上の体験活動）の 2 種類。

2 制度の特長

2018 年からの改訂保育所保育指針や幼稚園教育要領等で重視されている自己肯定感などの「非認知的能力」を育むためには「幼児期からの豊かな体験活動」が有効であるという考えに基づく制度。

保育時間のほとんどを屋外での体験活動に費やす「森のようちえん」のみならず、既存の認可保育園、幼稚園、認定こども園を含む、県内すべての保育・幼児教育施設を認定の対象にしたことが最大の特長。

3 制度の実績

今年度（平成 29 年度）は制度創設 3 年目となるが、毎年度着実に認定数を増やし、現在 152 園が認定を受けている。（本県のすべての保育・幼児教育施設の約 2 割）

【認定園内訳】

園の種類別	特化型 (週 15 時間以上の体験活動)	普及型 (週 5 時間以上の体験活動)	計
公立 (保育園・幼稚園・ 認定こども園)		109	109
私立 (保育園・幼稚園・ 認定こども園)	2	30	32
認可外保育施設 (森のようちえん等)	8	3	11
計	10	142	152

※認定園が所在する市町村は全 77 市町村のうち 27 市町村まで広がる。

※H31 年度末までに、全県の 3 分の 1 程度の 250 園程度の認定交付を目指す。

4 制度に伴う県の主な支援施策

「人材育成、情報発信、財政支援」の 3 つの柱で、運営安定化や保育人材の確保等を積極的に支援。

人材育成	情報発信	財政支援
<ul style="list-style-type: none"> ●自然保育研修交流会の開催 ●自然体験活動専門指導者を派遣 	<ul style="list-style-type: none"> ●自然保育ポータルサイトの開設 (総アクセス数は 50 万超) ●認定園を県内外に積極的に広報 (銀座 NAGANO でのセミナー等) 	<ul style="list-style-type: none"> ●公的支援のない認定園の人件費助成 ●自然保育のフィールド整備費を補助 (長野県森林づくり県民税を活用)

5 自然保育に期待される主な効果

子どもにとって	保育者にとって	地域社会（自治体）にとって
<ul style="list-style-type: none"> ●非認知的能力（自己肯定感、社会性、創造性等）が向上 ●主体的な遊びを通じて「学びに向かう力」が向上（ベネッセ調査） ●幼児期の外遊びにより学童期の体力が向上（スポーツ庁調査） ●「発達に様々な特性」を持つ子どもにも有益 	<ul style="list-style-type: none"> ●仕事のストレスが軽減され保育意欲が向上 ●資質や保育のスキルが向上 ●保護者とのコミュニケーションが広がり関係づくりに効果 ●人材確保につながる（自然保育に関心ある学生の県内就職や県外から保育者が移住） 	<ul style="list-style-type: none"> ●子育てを楽しむ保護者が増える（自然増に期待） ●移住促進（社会増に期待） ●保育園や幼稚園等と地域住民の交流が広がり地域が活性化 ●幼保小の連携が進み、特色ある初等教育が展開（特に過疎地域の小規模校）

6 他の自治体や民間団体等との連携拡大

自然保育の普及推進では、本県以外に鳥取県と広島県でも支援制度が創設されている。

鳥取県 「とっとり森・里山等自然保育認証制度」（平成 27 年 3 月施行）

広島県 「ひろしま自然保育認証制度」（平成 29 年 10 月施行）

その他、岐阜県、三重県、山梨県、群馬県、滋賀県、埼玉県、愛知県、北海道等の自治体でも、自然保育に関心を持つ行政担当者、地方議員、保育者、保護者等による情報発信や勉強会等が広がっており、また、全国的な活動を展開している「NPO 法人森のようちん全国ネットワーク連盟」や「日本自然保育学会」（平成 27 年 10 月創設）等の民間団体との連携も進めている。

なお、H30 年 4 月 17 日に、長野県、鳥取県、広島県の 3 県知事の共同宣言により、自然保育の普及と質の向上を目的とする「森と自然の育ちと学び自治体ネットワーク」が設立された。

5 月 28 日現在、全国 63 の自治体（14 県、16 市、20 町、13 村）が参加表明しているが、今後も県内外の市町村に向けて参加のよびかけを継続的に行う予定。

なお 5 月 21 日には、国が議論を進めている「幼児教育の無償化」に対する要望書を、松山政司内閣府特命少子化対策担当大臣ほか 3 大臣宛てに提出した。

今後は豊かで質の高い保育・幼児教育の実現を目指した自治体担当者の情報共有や学びあいの場づくりと、保育者の人材確保や人材育成に対する支援施策の研究等を進めつつ、地方の子育て、保育・幼児教育の環境充実、少子化対策や地域活性化等に資する取り組みを、参加自治体と連携して進める予定。



信州やまほいく

自然保育ポータルサイト

信州やまほいくの郷

<http://www.shizenhoiku.jp/>

認定園の自然保育実践が

740 事例以上も紹介！！

【問合せ】 〒380-8570

長野県 県民文化部 次世代サポート課

課長：高橋 功 担当：竹内、西澤、細萱

TEL：026-235-7207（直通）

FAX：026-235-7087

Email：jsedai@pref.nagano.lg.jp

信州やまほいく認定園の自然保育実践例

自然保育ポータルサイト「信州やまほいくの郷」に認定園が投稿している「自然保育実践例」を参照 <http://www.shizenhoiku.jp/case/>

認定園の自然保育実践が
740 事例以上も紹介されています

長野市立 とがくし保育園 (北信地域)	
タイトル	かちわたり (凍みわたり)
テーマ	水/空・天気
対象年齢	4, 5 歳児
ねらい	雪原で好きな遊びを見つけて楽しむ
活動内容	<p>戸隠名物かちわたり! (おそらく、方言)、凍みわたりとも言う地方もあるようですが・・・降雪した雪が凍って丈夫になり、その上を歩けるようになった様子のことです。特に子どもは、体重が軽いので雪の中に沈むことなく、雪原を自由に走りまわられます。</p> <p>でも、大人が油断すると、ズボツと足が埋まり、こんなことになります。そんな穴も子どもたちの工夫で楽しい遊びに変身します。</p> <p>「お風呂、いい気持ち! 穴に落ちないように、飛び越えよう! 穴を大きく掘って工事しよう。」</p> <p>一つの穴でこんなに楽しい遊びが発展していきました。</p>
子ども達のきづき	<p>こういう時の雪がよく滑ることを子どもたちは知っています。「フードを被って、頭を付ければ良く滑るね」</p> <p>表面は固まっているから、表面を叩いて取れば、こんな風に重ねていくこともできます。自分の周りに枯れた枝を雪に刺して、その周りに凍った雪を立てていけば、まるで家のようになりました。枯れている枝は、雪の中からすぐに抜くことができます。雪の下 70 センチくらいの根元が、まっすぐ引き出すときれいに折れることなく抜き取れます。そんな枝を弓矢に見立てて遊ぶ年長児。</p> <p>子ども達の発想は無限です。雪がたくさん積もった後の木登りは、いつもより高いところまで登ることが出来て楽しそう。木の上に一人子どもが登っています。何処にいるのでしょうか? ここです。木の家なんですって。</p> <p>そして、寒いからたき火で温まるように、薪を集めてたき火ごっこが始まりました!</p>
事例に対する保育者の思い	<p>とがくし保育園の保育目標の一つに、「好きな遊びを見つけられる子ども」とあります。今日の雪原での子どもたちの次から次へと出てくる楽しい遊びを見て、子ども達の発想力の豊かさに驚かされました。</p> <p>こうやって今まで自然の中で遊んできたことにより、既成の玩具ではなくても、自分で工夫して道具を作ったりイメージをふくらませてごっこ遊びをしたりすることができるように成長しました。自分で発見して考えて、もっともっと好きな遊びを見つけていきたいですね。</p>

保育の様子



タイトル	玉ねぎの皮で染め出しをしよう！
テーマ	植物・生物／水／火／食／つくる
対象年齢	5歳児
ねらい	玉ねぎの皮を煮出すとどのような色が出るのか知ったり、布や和紙などの素材の違いによってどのような色に染まるのか知ったりして玉ねぎや染め出しに関心が持てることを願って。
活動内容	<p>玉ねぎの皮だよ たくさんあるね！ 玉ねぎの皮を袋に詰めよう！ 玉ねぎの皮を煮出すよ どんな色になるのかな！？ ゴムでしばった布を色水に浸してみよう 染めた和紙と布に更に色が染みてきました みんなが入れてくれた布や和紙を、先生が仕上げに混ぜます 布の輪ゴムを外すと白い輪っかの模様になったよ</p>
子ども達のきづき	<p>玉ねぎの匂いがするね 玉ねぎの煮汁とお薬を混ぜると、こんな色になるんだね 煮えたかな？クンクン…匂いが変わった！ 布は黄色っぽくて、和紙は茶色っぽくなるんだね</p>
事例に対する保育者の思い	<p>たくさんとれた玉ねぎの皮を「どうしようか？」と子ども達と相談した時に、子ども達からは意見が出なかった。保育士から「染め物はどうか？」と提案した所、子ども達ものってきたので、和紙と布を染めてみた。 どんな色に仕上がるか予想してワクワクしながら活動していたが、きれいなうす茶色に染まったことに感動の子ども達であった。 玉ねぎの収穫から染め出しまで継続した活動を行うことができよかった。また、経験したことのない活動を体験することができよかったように思う。</p>



安曇野市立 有明の森認定こども園（中信地域）

保育の様子

実践例	ぼくたちのへんてこ森へ行ってへんてこ動物を作ろう!!
テーマ	植物・生物／つくる
対象年齢	5歳児
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・物語の世界を楽しみ、かしわの木から森へ入る。 ・へんてこ動物作りに必要な材料を穂高荘で集める。 ・身近な自然物を使って戸外で製作することを喜ぶ。 ・自分のイメージを自由に表現する楽しさを感じる。
活動内容	<p>子ども達が大好きな「へんてこもり」のお話。仲良し4人組が園の裏にある「へんてこ森」へ遊びに行きました。空想の生き物の名前を言うと本当にへんてこ動物が表れ、へんな事が起こります。それは、いつも1本のかしわの木の横を通ると起こります。子ども達は、物語の世界に親しみ、いつも遊んでいる森にかしわの木がある事に気が付きました。かしわの木を通るとへんてこ森へ行ける、「まるぼ」や「ぼさこう」に会えるイメージを共有します。子ども達が集めたへんてこ動物の材料は自然豊かな環境ならではの自然物です。さくら、くり、もみじ、赤い実などたくさんの葉を集めた女の子。さくらやくりの葉っぱの名前を教えてください。どの葉を顔のどのパーツにするか目的を持って集め、集めた自然物を使ってへんてこ動物を作ります。</p>
子ども達のきづき	<p>「まるぼの声が聞こえる。」子ども達は「へんてこ森」の世界へ入りドキドキです。「かしわの木に顔があったよ。」「ぐるぐるの者が見えた!」「まるぼ見つけ!!」と追いかける男の子たち。大好きな「まるぼ」の出現!! 一緒に遊びたいね。「へんてこ動物を白樺の枝で作る。」作りたいイメージに合う自然物を拾っている男の子。気持ちは物語の中に居ます。「これ、口にするんだ。」「どこかで、まるぼやぼさこうが見ている。」自分のイメージをしたへんてこ動物ができるよう、イメージを持って拾います。「赤ちゃん松、発見!」松ぼっくりの初期の様子はほとんど見たことがないので、珍しそうに見ています。普段見られない自然環境に出会って嬉しい子ども達です。「しっぽは2本にするんだ。自分なりの表現楽しんでいます。</p>
事例に対する保育者の思い	<p>落ち葉は口、松ぼっくりは鼻、枝は目のパーツと意識をして集めていた男の子です。へんてこ森の世界を実感し楽しむ姿に共感します。からすのえんどうを見せてくれた女の子、自然との関わりの中で子ども達が自ら発見し、図鑑で調べ知識を習得し友だちに教える姿が見られます。「まるぼが居た。」「ぼさこうが見えた。」と自分達の「へんてこ森」の世界楽しんでいます。「まるぼやぼさこうが見てくれる。」と自分のへんてこ動物を作ります。「へんてこ動物できた!」どんぐりの目、さくらの葉の体、自分なりのイメージで材料を集め、完成したことに満足しています。物語の世界に触れ共通のイメージで楽しむことができます。これから子ども達からの発想を大切に遊びたいと思います。</p>



箕輪町立 上古田保育園 (南信地域)

保育の様子

タイトル	お母さん先生とスケートに行きました
テーマ	空・天気／人・地域
対象年齢	3～5歳児
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・寒さに負けず元気に遊ぶ ・お母さん先生とスケートを楽しむ
活動内容	<p>1月10日からする予定だったスケートですがなかなかリンクが凍らず1月17日に第1回目がよくできました。この日はお母さん先生（保育参観ではなく実際に保育に参加していただくのでこう呼びます）10人と一緒に初滑りを楽しんできました。</p> <p>氷に慣れるまで椅子を使うと安定感があります。お母さん先生に見守られながら自分で立ちました。</p> <p>恐る恐る慎重に足を出します。</p> <p>少しずつ慣れてきた子は椅子を押しながらコースを回ります。</p> <p>1時間もしないうちから年長の子供たちは感覚を取り戻して椅子無しで滑るようになりました。</p>
子ども達のきづき	<p>まだうまく立てない時や氷で滑りそうなときは椅子を使うと大丈夫だね。</p> <p>氷の上では足を「八」の字にするとうまく立てるよ。</p>
事例に対する保育者の思い	<p>この地域ならではの「スケートあそび」ができることは本当に貴重な体験となっています。年に数回と言う回数でも年長になるとみんな滑れるようになり子どもの持っている力の凄さを改めて感じます。</p>

